

資料

50音順に掲載しています。



イタヤカエデの冬芽

【イタヤカエデ】

種類 カエデ科カエデ属（落葉高木）

樹高 20m、直径1m

特徴 枝：若い枝は鮮褐色で軟毛がある。

葉：長さ、幅ともに5～10cm、掌状に浅く裂け、無毛で鋸歯がなく秋には黄褐色となって散る。

花：小さい淡黄色で4、5月頃に咲く。

果実：長さ1.5cm、幅がその半分ぐらいの翼果は楕円形状。

分布 各地の山地

用途 装飾材、樹液は砂糖を製造

【エゾシカ】

体長 オス：130kg以上 メス：80kg以上

特徴 上あごの前歯がない

足は指が2本の有蹄類で、指行性（踵が地面についてない）

10月：黒っぽい冬毛、たてがみのような毛

角はオスのみ、毎年生え変わる

4月～5月に落角。後には袋角と呼ばれるビロード状の皮膚に被われ、内部には毛細血管が発達したやわらかい角が成長。9月に枯れ角（骨化が進み血流が止り、袋角の皮が脱落して角が露出）。

餌 草本、樹皮、ササ

行動 出産：5～6月

繁殖期：10月 オスは自分の尿を泥とともに体中に浴びる。

体や角を木にこすりつける。ラッティングコール（「フィーヨー」あるいは「メフーン」と聞こえる繁殖期特有の鳴き声）ハーレム形成。

フィールドサイン

角研ぎ跡、足跡、糞、ヌタ場、食痕



糞



ヌタ場

○有効活用：シカ肉

エゾシカは本道を代表する大型哺乳類です。明治初期の大雪と乱獲により、一時知床半島部からは姿を消しました。しかし、天敵のオオカミが絶滅したことにより適正個体数維持のための自然調整力が失われてしまったことや、保護政策、小雪暖冬の気象や森林伐採などによって、エゾシカが好む草地の中に林が散在するようになったことなどにより個体数が増加し、希少植物や自然林等生態系への影響が顕著になるとともに、農業被害や、交通事故も発生して社会問題にもなっています。エゾシカと人間の共存のために、適正な保護管理対策として個体数調整に取り組んできましたが、歯止めがかからない状況が続いており、北海道では「エゾシカの有効活用のガイドライン」や「エゾシカ衛生処理マニュアル」を作成するなどし、エゾシカの有効活用の取り組みを行っています。シカ肉は低脂肪高タンパクのヘルシー食品であり、ヨーロッパでは

野生鳥獣の肉を「ジビエ」と言って、大変価値のある食材として珍重されています。根室支庁管内では（有）ユックというエゾシカの加工場があり、スーパーで販売され家庭でも食べられるようになり、また、羅臼の食堂ではシカ肉料理を提供しています。

○農業被害

エゾシカの増加により、希少植物や自然林等生態系への影響が顕著になるほか、ジャガイモ、ビート、小麦、牧草、コーン、野菜類などの農業被害、更に家庭菜園や庭木にまで食害が広がっています。対策としては有害鳥獣駆除や、案山子やテープ、爆音機、漁網ネット、電気牧柵、2mの高さの防鹿柵がありますが、有害鳥獣駆除は人員不足、出沒は発砲できない夜に集中し、音や光より驚かすものは慣れてしまい、漁網ネットは破られたり、網に絡み死んだシカにヒグマが餌付くなどの課題があります。

防鹿柵は柵外の地域に被害が集中したり、広範囲に設置しないと用をなさないため費用がかさむ、河川、道路など柵が途切れる箇所から進入する、他の野生動物の移動の障害になるなどの問題があります。

【エゾモモンガ】



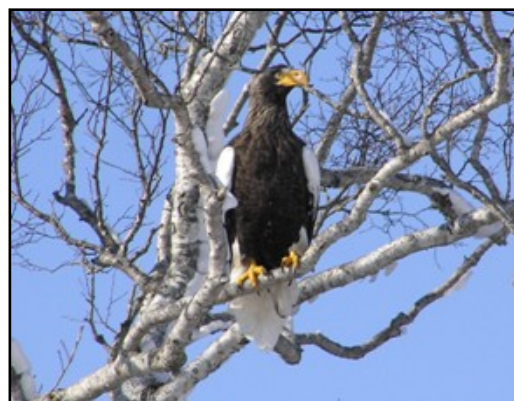
- 体長 頭胴長は15～16cm、体重は81～120kg
- 特徴 前足と後ろ足の間に飛膜（マント）、尾は平べったい
- 餌 春～夏：樹木の葉、花、芽、秋～冬：樹皮やハルニレなどの冬芽、トドマツなど針葉樹の葉芽
- 行動 夜行性、樹上性
巣から出ると、排便排尿
- 分布 北海道全域
- フィールドサイン
食痕：針葉樹の葉っぱの先っぽが冬によく目立つ、ハルニレの小枝
糞：樹の根にご飯粒の大きさ、色は食べるものにより変わる
ねぐら：天然樹の穴

【エゾリス】

- 体長 頭胴長：22～27cm、尾長：16～20cm、
体重：300～410g
- 特徴 胸が白い
夏毛（5月）冬毛（10月）、冬毛の方が長い
- 鳴声 キョッキョッキョッキョッ又はコッオ、コッオ、コッオ
- 餌 オニグルミ、ミズナラの実、キノコ、昆虫、草木の芽、花
- 行動 昼行性、冬眠しない
- 分布 北海道全域
- フィールドサイン
足跡、半分に割れたクルミ



【オオワシ】



- 体長 全長 雄 88cm、雌 102cm
翼開長 220～245cm
- 特徴 くちばし：大きく厚みあり、成鳥は濃い黄色
尾羽：長いくさび形
体色：成鳥は黒褐色で尾羽、翼の前縁、腿は白
足の裸出部は黄色
- 鳴声 クワクワクワ・・・
- 餌 サケ・マス類、イワナ、カモ類、カモメ類
- 行動 越冬のため渡来
- 分布 オホーツク海沿岸を中心とした極東地域
- 特記事項 天然記念物、絶滅危惧種

【オジロワシ】

体長 全長 雄 80cm、雌 95cm

翼開長 180～230cm

特徴 くちばし：オオワシに比べ、厚みがない。成鳥は薄い黄色

尾羽：ややくさび形

体色：成鳥は明るい茶色。尾羽は白。足の裸出部は黄色。

鳴声 カッカッカッ・・・

餌 サケ・マス類、カモ類、カモメ類

行動 越冬のため渡来するが繁殖もしている

分布 ユーラシア大陸の中高緯度地域を中心に広く分布

特記事項 天然記念物、絶滅危惧種



【オショロコマ】 *Salvelinus malma*

分類 サケ科イワナ属

特徴 体の大きさは10～30cm。体側の赤点と腹部の赤色が目立つ。北海道では河川の最上流域に生息し、その下流側にアメマス、サクラマスが生息するが、知床は最上流域から河口まで生息。知床の川では、一年中、どこでも、普通にいる。知床を代表する淡水魚。北海道のオショロコマはそのほとんどは陸封型だが、知床半島周辺の海及び川では時々降海型のオショロコマが採取される。

分布 北太平洋北部に広く分布、北海道はその南限に位置する。



【海洋汚染】

平成18年(2006)2月下旬に斜里町の海岸で油まみれの海鳥の死体が次々と発見されました。海鳥の種類は、ハシブトウミガラス、オオセグロカモメなどのオホーツク海周辺に生息する海鳥でした。関係行政機関などが中心となり3回の漂着死体回収を実施し、5,568羽の死体が確認されました。海が汚染するとそこに棲むものだけではなく、魚を餌にしている海鳥、そこから派生し生態系にまで影響が及びます。

道では環境汚染事故に係る危機管理の充実・強化を図るため平成17年(2005)6月に「環境汚染事故に係る危険対応マニュアル」を作成しました。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/NR/rdonlyres/1BC68167-76F4-4DCB-A5A1-024F163437C5/0/manual.pdf>

その中には平成17年(2005)に作成した「流出油事故災害対応マニュアル」があり、本道周辺地域での突発的な油の流出事故に適切に対応するため、これまで発生した事案の検証を行い、事業者等の事故発生時の迅速な対応や関係機関に対する速やかな状況報告などを整理し、突発的な事故が発生した際には関係機関と連携を図り対応しています。

【河川工作物】

河川で行われている工事には土砂災害や洪水災害を防止するための治山(土砂を対象)・治水(水を対象)工事と河川の流水を生活・産業等に利用するために行われる利水工事に大きく分けられ、目的によりさまざまな名前の河川工作物(ダムなど)が設置されています。ちなみに、知床世界遺産地域内を流れる河川には、120基余りのダムが設置されています。平坦地がわずかしかない急峻な地形条件の知床半島では、人家は河川周辺の平坦地に集中せざるを得ません。1990年代までは、人のことが優先で、魚類の環境のことを考慮した効果的な河川工作物はほとんどありませんでした。魚類の生息環境の保全からすれば河

川工事は極力行わない方が望ましいのですが、人命・財産の安全確保は重要ですので、災害を未然に防ぐことができ、なおかつ魚類にとっても生息環境を損なわない工法を考えること、すなわち次世代のことを視野に入れた、生態系を保全する知恵の出し方が重要となっています。

なお、知床世界自然遺産地域科学委員会河川工作物ワーキンググループにおいてサケ科魚類の自然産卵環境の保全と防災目的を確保した上での河川工作物の関係が検討され平成17(2005)年度に「改良の検討を行うことが適当」と評価された10基の河川工作物のうち3基の工作物について各設置者により平成18(2006)年度に改良工事が実施されました。

【カラフトマス】 *Oncorhynchus gorbuscha*

分類 サケ科サケ属

特徴 魚体の大きさは30～70cm。オスは背中がこぶのように盛り上がる。ぶな毛(婚姻色)は、腹側が白く、体の側面から背中茶褐色～黒褐色系の色になる。エラブタの縁はピンク色。9～10月に川底が見えなくなるくらいの群が川に遡上し、産卵する。翌春、川底の産卵床から浮出した0歳稚魚は、ただちに海洋生活に入り、次の年の秋には1歳で親になり川に遡上し、産卵して一生を終える。寿命や河川生活期間はサケ科魚類の中では一番短い。大量な海の栄養分を陸にもたらす本種は、知床の生態系にとって重要な生き物。



分布 北太平洋北部に広く分布、日本での分布はオホーツク海・太平洋側に偏っている。

○ サケ・マスの密漁問題

北海道の河川や湖沼には「北海道内水面漁業調整規則」という漁業に関する規則があり、サケ・マスの捕獲は全面的に禁止されています。例外的に、北海道さけ・ます増殖事業組合が行う増殖や有効利用調査のため事前に事務局へ採捕従事者として登録すると、調査を実施している河川内でサケ・マスを釣ることができ、平成16年(2004)度は忠類川のほか道内で3河川で実施しています。規制だけでは密漁はなくなり、メスの腹を裂いて卵だけを取ったり、捕獲効率を上げるため殺す必要のないオスや産卵途中のメスの死体も川岸などに放置する状況もあり、ヒグマを呼び寄せる危険があります。



【キタキツネ】

体長 体長は60～80cm、体重は5～10kg

特徴 ふっくら太く長い尾と、淡い茶色の毛

餌 ネズミ、昆虫、果実、魚、鳥

行動 発情期：1～2月、出産：3～4月

分布 北海道、南千島、サハリン

フィールドサイン

足跡：一直線に並ぶ

【クラカケアザラシ】

- 体長 150cm前後、体重130kg
特徴 鞍をかけたような模様。ゴマフアザラシに比べ鼻が短い
前脚：短く、爪がある。後脚：後ろにのぼしたまま
耳たぶなし
餌 スケトウダラなどの魚類
行動 歩き方：這って歩く
泳ぎ方：主に後脚で泳ぐ
流氷とともにやって来る



ケヤマハンノキの冬芽

【ケヤマハンノキ】

- 種類 カバノキ科ハンノキ属 (落葉高木)
樹高 15～20m
特徴 樹皮は黒褐色、大小の皮目がある。葉は単葉で互生。葉身は広卵形または広楕円形。長さ8～15cm、幅は4～12cm。葉の表面は濃緑色、裏面は帯白緑色で毛が全面にある。葉縁は大型の欠刻状の重鋸歯。側脈は6～8対。雄花序は長さ7～9cm、2～4個垂れ下がる。雌花序は雄花序より下に3～5個下向きにつく。果実は堅果。長楕円形で狭い翼がある。果穂は長さ1.5～2.5cm。
分布 北海道、本州、四国、九州、アジア東北部
用途 緑化樹、土木・器具材

【ゴマフアザラシ】

- 体長 150～170cm、体重110～130kg
特徴 ゴマを振ったような模様。体色は乾いたときはベージュ、濡れるとグレー
前脚：短く、爪がある。後脚：後ろにのぼしたまま
耳たぶなし
餌 スケトウダラなどの魚類
行動 歩き方：這って歩く 泳ぎ方：主に後脚で泳ぐ
流氷とともにやって来る
分布 ベーリング海、オホーツク海、日本海の一部
特記事項 地域個体群 (ゴマフアザラシの夏期定着個体群)



【シロザケ】 *Oncorhynchus keta*

- 分類 サケ科サケ属
特徴 体の大きさは、45～90cm。
ブナ毛 (婚姻色) は、緑色の地色に赤紫や黒の入混じった横縞、または黒い帯状の縦縞が現れる。日本ではサケ科魚類中最も漁獲量が多く、魚体が大きく、味が良く、保存食としての品質が高いことから水産業で重要。
知床沿岸は北洋から日本列島各地の河川に回帰するシロザケの通路になっている。



シロザケのメス (下) とオス (上)

分布 北太平洋北部に広く分布

稚魚は産卵床から浮出後、河川生活数週間から数ヶ月で海洋生活に入り北太平洋を回遊する。2～6年目の夏から秋にかけて母川に遡上し、産卵して一生を終える。一生間の河川生活期間はサケ科魚類の中ではカラフトマスに次いで短い。

シロザケにはたくさんの呼び名があり、漁協や漁業者により分け方に微妙な違いはあるが羅臼漁協では、姿や形、とれる時期、味などからケイジ、トキシラズ、メジカ、アキアジに分けている。

【生物の多様性と生態系】

※内容については「2 知床の概要」(P 4)に記載。



ツタウルシの冬芽

【ツタウルシ】

種類 ウルシ科ウルシ属。落葉のツル植物

特徴 葉は3枚の小葉からなり、頂小葉は5～15cm。雌雄異株で、6～7月に葉腋に小さな花を多数つける。花は黄緑色で花弁は長さ2.5～3mm。果実は扁球形で夏に熟し、縦筋がある。触れるとかぶれてしまったりするので要注意。

分布 北海道から九州の日本各地、樺太・南千島・中国などにも分布。

【トド】

体長 オスの成獣：3m、体重1tを超えることもある

メスの成獣：2.2～2.3m、体重700kg

特徴 前脚：長く、上体を起こすことができる。

後脚：前方に折り曲げることができる。

耳たぶ有り

餌 スケトウダラなどの魚類

行動 歩き方：4本足で歩く

泳ぎ方：主に前脚で泳ぐ

流氷がくる前にやってくる

分布 北海道からカリフォルニア南部にかけての北太平洋沿岸海域

知床で見られるのはメスが多い

特記事項 希少種



○ 漁業との関係

トドは漁獲されたスケトウダラを漁網ごと食い破って捕食することがあると考えられています。1960年代以降、トドによる漁業被害が全道的に問題となり、それ以降、国や道からの補助金が出るようになり、盛んに駆除が行われるようになりました。1993年まではトドの採捕頭数に制限を設けていませんでしたが、1994年からは北海道連合海区漁業調整委員会の規制により、1989年から1993年までの採捕数の平均値の80%として、全道で年間116頭までという駆除頭数の上限が定められています。(内訳 30頭(宗谷・留萌)、10頭(石狩・後志)、8頭(その他)、68頭(調整枠)) 羅臼ではトド肉を缶詰(大和煮)としたり、食堂でトド肉料理を提供したりするため、駆除した死体のほとんどが回収されています。希少種であるトドの絶滅を回避しながらも、漁業被害を抑制していく必要があります。

アザラシ類でもトドと同様に、漁獲物の捕食など漁業被害が問題となっています。また、定置網の中に入り込んで出られなくなり、溺死するものや刺し網に絡まって死ぬものもいます。

なお、2002年以降は「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」の施行に伴い、アザラシ類も法の対象として扱われることとなり、捕獲が制限されています。

漁業被害防止目的等の捕獲を行う場合は原則として環境大臣又は都道府県知事の許可が必要となり、鳥獣捕獲許可審査基準により必要最小限の期間、人員、頭数を定めています。

【ヒグマ】

本州のツキノワグマと北海道のヒグマの2種類が生息

体長 体長2m以上、体重も300kgのものもいる。知床では近年400kgの記録がある。

ツキノワグマはオスでも平均70kgほど

特徴 ヒグマはツキノワグマよりも肩が大きく盛り上がり、爪は大きく長い。「月の輪」はヒグマにも見られる。

餌 フキ等の草本、どんぐり、サルナシ等の木の実、アリ、海獣、シカ、サケ・マス類

行動 4月に冬眠から覚め、12月ごろ冬眠。冬眠穴は地面を掘って作ることが多く、寝床にササや小枝を敷く。メスグマは冬眠中に1～3頭出産。

分布 ロシアや北米など北半球に広く分布

フィールドサイン 木の爪痕

糞 食べたものにより色、性状が異なる

※ 冬は冬眠しているので見られません

足跡 ※ 冬は冬眠しているので見られません



足跡



木の爪痕

【漂着ごみ】

知床半島の海岸線には、ペットボトル、空き缶、瓶、プラスチック容器類などの漂着物が年々増え、また、漁網やロープ類などの漁業廃資材も漂着し放置されている状況があります。知床半島先端部は道路がなく、船舶によるアプローチしか方法はありません。そのため羅臼町では、平成11年(1999)から知床岬クリーン作戦として海岸清掃の取り組みを行っており、平成17年(2005)からは地元NPOとの共催によって、全国から漂着ごみの回収ボランティアを募り、人海戦術による海岸清掃を行なっています。

【ミズナラ】

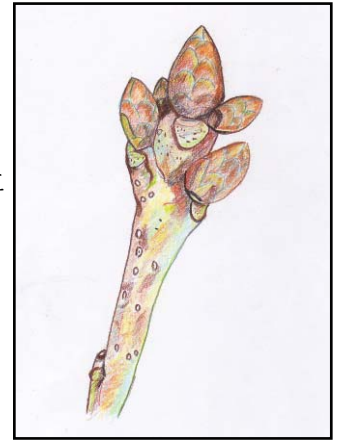
種類 ブナ科コナラ属。ブナと並んで温帯の落葉広葉樹林の代表種。

樹高 大きなものでは35m

特徴 葉はつやのない緑で、コナラよりももっと波打つようなはっきりした鋸歯(輪郭のギザギザ)がある。5月頃に長さ5cmほどの花を咲かせ、秋にはドングリが熟す。

分布 北は北海道から樺太・南千島まで、南は鹿児島県高隈山まで分布

用途 特に北海道のものが良質とされ、「道産の檜」(ジャパニーズオーク)と呼ばれ、輸出された。



ヤチダモの冬芽

【ヤチダモ】

種類 モクセイ科トネリコ属(落葉高木)

樹高 大きなものでは直径1m

特徴 葉は羽状複葉で、枝は太い。雌雄異株であり、花は4~5月に咲く。秋に翼のある長さ2.5~3.5cmの果実ができる。

分布 北海道、本州、朝鮮に分布。

用途 家具や装飾材、野球のバット、テニスのラケット